

「クレオパトラな女たち」のテレビドラマにおける整形手術の社会的位置づ

けと事実分析

1. 序論

この研究では、エミール・デュルケームによって提唱された社会的事実理論の社会学的アプローチを採用する。デュルケームの社会的事実論によると、外部からの力として個別に適用する全体の演技として、生であるかどうか、それはまた、社会的な事実、共通の社会行動の全体的な方法であり、同時に関係なく、個々の症状の有無と言える。

本研究では、ランドール・コリンズによって提唱されたコンフリクト理論も使用する。コリンズの理論に基づくと、競合が社会生活の中で中心的なプロセスであり、すなわち、あることを現実的な根拠に基づいて紛争の焦点として選んだと言った。

整形手術は、20 世紀後半における医療および外科手術 (cosmectical) の世界の不思議の一つです。それだけでなく、身体への物理的損傷を修復することは有益で、整形手術でも完璧な、例えば鋭い鼻、唇、あるいはサイズを小さくするといった身体や顔の補正や修理部品のために有益である。

日本では、整形手術は、コミュニティによって行われる。より多くの日本人の老若男女は、彼らが鏡で見る自信の姿に満足していない時に整形手

術に頼るようになった。整形手術は様々な人々によって行われ、年齢は自分自身に害を与えることができる否定的な影響を与えている。ポストのマイナスの影響を受けた整形手術はアルコール、薬物単独ニコチンのみならず中毒症状を起こす。最初の違反者は鼻の整形手術を望んでいたが、実現することなく、また彼らは衣装のアイデンティティを持っていない人であることにより数億円を無駄にした。

2. 本論

本研究では、社会的な事実が「クレオパトラな女たち」にも反映されている日本社会で発生した社会的事実の社会学的な見方を使用して「クレオパトラな女たち」のドラマを分析する。

2. 1 形成外科について、内部紛争の人々

このドラマでは整形手術を行う際に医師と患者の両方が、これらは内部紛争を経験したと言われている。岸峰太郎は国立病院から来て、その後、民間病院に移り、その過程で彼は内心の葛藤を経験し、彼は常に事故で負傷した患者を扱ってきた外科医である。岸峰は、人間は神によって与えられた身体に感謝する必要があると説く。また、彼の同僚のコメントは整形手術が非常にうまく行ったといい、BSC のクリニックは、彼らが完璧に見えるので、

彼らは整形手術をする患者のためにいい見本になるとかんがえている。給与は国立病院が支払う給与と比較して、多額であるため岸峰は最終的に彼女の父の借金を返済するために耐えなければならなかった。

2. 2 形成外科拒否に対する役者。

ある妻は整形手術により完璧な見た目を欲していたが、夫は少なくともプロセスに一月以上かけることを要求した。夫は、妻が今ゴージャスであれば、彼女はよからぬ関係を他人と持つことになると考えていたし、またエピソードの最後に示されている。ここで夫が妻の政経について拒否したことは、非常に合理的であるし、妻はその後ずっと若い年齢の男と浮気した。また、診療所で働いていた従業員ヒロは葵ちゃんと結婚したいと言ったが、彼女は整形手術をしていた。葵はプレイガールで遊ぶのが大好きであり、男性と出会い、結婚するつもりが、ヒロの母親はヒロが整形手術を行った女性と結婚することを同意していないため、その後の家族の拒絶があった。

2. 3 形成外科の後の動作の変更。

人間が自分自身の合意を解放するために、社会的事実によって拷問を受けた後、社会の影響を受けているというのがエミール・デュルケームの理論である。他人によって影響を受けた個人が社会で既存の開発に合わせて自分の考え方や文化を変化させる傾向がある。離婚から不倫に至るまで、各個

人のもはや信頼されていない。また、川原一郎は整形手術の後に、彼は新しい生活と離婚して起動するために彼の心を変えたという考えに影響されている。

2. 4 外科医専門職に対するネガティブな見通し。

デュルケームの視点では、彼の個人的な興味の個々の認識は、互いに分離して形成されるのではなく、社会の中で他の人と共有する共有信念や価値観によって形作られる。社会の中で、それ自体が問題に発展してきた場合には、人々は後に、個々の思考の基礎を形成すると考えた。この場合、外科医は過小評価した場合、日本の人々が「クレオパトラな女たち」に描かれているように外科医は過小評価されている職業である。

3. 結論

得られた解析結果に基づいて、文字があるため、社会文化の発展を奨励し、「クレオパトラな女たち」は整形手術に示される。これらの開発はそれから個人を強制し、社会の中で新たなことを行うために個人を素因としている。BSCのクリニックでの整形手術の患者のように、彼らが社会の変化に追従したいので成形する。このようにコミュニティに成長しているものと同じになるように自分自身をプッシュする。

このドラマに存在する整形手術についてのさまざまな問題や紛争の公共の不満に至るまで、同様に負の影響の整形手術後に、整形手術の活動に関する世論の広い範囲があることがわかる。整形手術後の負の影響は、社会、中毒、そして俳優のような操作の挙動変化の拒絶である。

DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI.....	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI	vii
DAFTAR TABEL	ix
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Penelitian	1
1.2 Pembatasan Masalah	6
1.3 Tujuan Penelitian	6
1.4 Pendekatan dan Metodologi Penelitian	7
1.5 Organisasi Penulisan	10
BAB II OPERASI PLASTIK DALAM MASYARAKAT JEPANG	11
2.1 Sosiologi dan Teori Fakta Sosial	11
2.2 Operasi Plastik	16
2.3 Pandangan Masyarakat Jepang Terhadap Operasi Plastik	19
2.4 Dampak Negatif Operasi Plastik	25
BAB III ANALISIS FAKTA SOSIAL OPERASI PLASTIK DALAM	
 DRAMA TV <i>CLEOPATRA NA ONNATACHI</i>.....	28
3.1 Pengenalan Drama TV <i>Cleopatra na Onnatachi</i>	28
3.2 Konflik Batin Para Tokoh Mengenai Operasi Plastik	31
3.3 Penolakan Terhadap Pelaku Operasi Plastik	41
3.4 Perubahan Perilaku Setelah Operasi Plastik	50
3.5 Pandangan Negatif Terhadap Profesi Dokter Bedah Kecantikan	52
BAB IV KESIMPULAN	57
DAFTAR PUSTAKA	60

SINOPSIS	x
RIWAYAT HIDUP PENULIS	xv